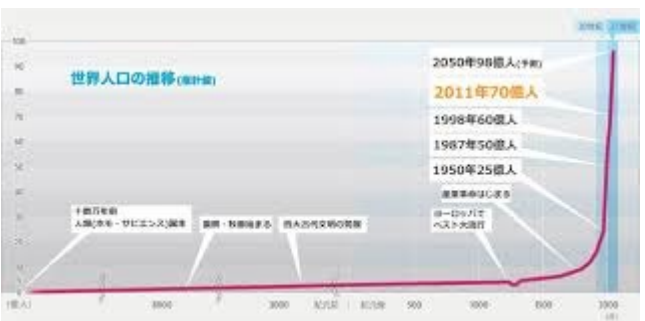


2021/8/11-2

前編からの続き

(うと)〇世話し 疑う余地がないと思ってやっていた事が最悪の結果を招いてしまった?
中編) 書庫版



ところで、此処で全く別のお話を致します。

ある意味上述のお話と一脈は通じているのですが、話の題目としては全く別となります。

それは、昨日のネットの記事に載っていたものですが、国連気候変動分科会(?)の科学者チームが行った緊急提言の記事で

「気候温暖化が今のままのペースで続けば、脱二酸化炭素達成度が最善の場合でも、産業革命以前と比して温度上昇が1.5度に達するのは当初予測の2030年から2050年ではなく、10年前倒しの2021年から2040年の間になる。最早待ったなし。そうしてこの自然の変異の原因は人間の諸活動の結果である事はこれまた最早疑いようのない事実である」と結論づけておりました。

蛇足ではありますが、温度上昇がもたらす人類への災厄としては「海面上昇、都市水没」「熱波」「山火事」「風水害多発」等で

特に食料調達の面に関しての重大問題が発生する可能性があります。

ここで、紹介文の中に出てきた「産業革命」以前と以降の変化に少しスポットを当ててみたいと思います。

産業革命は英国での蒸気機関の発明に端を発します。

その後都市、電気、大量生産など様々なものが創出されました。

人々はそれ迄の労苦がかなり軽減され、これからは素晴らしい世界が常に右肩上りで永遠に続く様な幻想を抱いたかもしれません。

英語で言えばそれまでの heavy duty, danger から解き放たれ safety, amenity, comfortable, convenient な、邦訳すれば将に「安全で快適な世界」

その一部が現出し「これからの我々の生活はかくあるべき」と思うようになったのかもしれない。

しかしその「安全で快適な生活」の実現と維持、拡大には想定を遙かに超えるコストと物的エネルギーが必要とされました。

又産業革命以降特筆すべき大きな変化として「人口の増加」が有りました。

「安全と快適」がもたらした必然の結果でしょう。

是をグラフで見ると

産業革命以前の世界の人口は、右方向即ち時間の経過に伴っても地を這うような動きだったのですが、

産業革命以降は短期間でほぼ垂直に近い形で激増したのです。

簡単に言うと「口」が矢鱈と増えたのです。

人々の口から吐き出される二酸化炭素の量も爆増したでしょうし、口から入り胃袋へ落ちて満足感や活動エネルギーの元となる食料の消費量も激増したと思います。

更にインターネット時代になるとその口々が一斉に声を上げ始めました。

一時経済学は

「色々あっても見えざる手によって予定調和的に軟着陸するから心配はいらない」

と説いておりましたが、昨今では人々も

「どうもそうではないらしい。誰も導いて等いなくて、自分達で何とかするしかないのかも」と薄々は感づいてはいる様です。

只、色々な利害による内心の駆け引きによって自分からは言い出さないだけの話で。

(続く)